



## しまいけい かいこ 島己兮氏と蚕神社

鹿央町下米野地区の県道沿いに「蚕神社」があることをご存じでしょうか。今回はこの神社に祭られている島己兮氏と熊本の養蚕業の起源について掲載します。

さかのぼること250年余り前、肥後細川藩は6代重賢公が治めていた頃のことです。名君として名高い重賢公ですが、1747年に藩主となった当時は、相次ぐ凶作などにより、藩財政は大変な窮乏ぶりでした。

そのような中、重賢公は宝暦の改革と呼ばれる藩政改革に着手しました。この改革は質素儉約を奨励すると同時に、新たな産業の育成を行うものでした。この産業奨励策の一つが養蚕業の振興で、その中で中心的な役割を担ったのが、現在の鹿央町米野に住んでいた島氏です。

島氏はもともと我流で蚕を飼い、絹を織っていましたが、重賢公の命を受けて、当時養蚕が盛んであった近江国（滋賀県）に赴き、養蚕技術を学びました。そこで学んだ技術を持ち帰ると、藩の養蚕振興の主任として藩内各地で指導して回るとともに養蚕と桑栽培に

関する教科書を書き上げました。このような島氏の努力により、肥後細川藩では養蚕が主要産業となり、明治以降、鹿本町出身で近代養蚕の父とたたえられる長野藩平氏の登場を経て、熊本が養蚕製糸業の一大拠点となっていったのです。

この島氏の偉業をたたえ祭られているのが、蚕神社です。今も地域の方々が大事に管理され、時を超えて山鹿の養蚕業を見守っているのではないのでしょうか。



写真左手前が島氏の墓。右側の建物が蚕神社

※新シルク蚕業構想の情報は、次のWEBサイトでも発信しています。ぜひご覧ください。

<http://www.silk-on-valley-yamaga.jp/>